



院長
真崎 雅和



インフルエンザワクチンの効果

インフルエンザ予防接種の季節になりました。

インフルエンザワクチンについては有効性、副作用等の観点から賛否両論があるのが現状です。

記憶にある方もいらっしゃると思いますが、8月30日に「インフルエンザワクチン、乳児と中学生には予防効果なし」という報道がありました。これは、2013～14シーズン、生後6カ月～15歳を対象にしてインフルエンザワクチンの効果を検討した論文について取り上げたものです。乳児（1歳未満）と中学生（13～15歳）に予防効果なしという残念な内容が気になりましたので、記事の元になった論文を調べてみました。

この論文では、6～11カ月、1～2歳、3～5歳、6～12歳、13～15歳の年齢別に検討しています。予防効果がなかったとされる乳児、中学生では、正確には「症例数が少ないため統計学的に有効性を分析できなかった」となっていました。一方、1～12歳ではA型に対して一定の発症予防効果は認められたものの、B型に対してはA型よりも効果は低かったという結果になっていました。

また、予防接種に期待される効果は、発症予防のほかにも重症化（入院が必要な状態）予防もあります。A型では重症化予防効果は高かったのに対して、B型では効果は認められません。

乳児においては免疫獲得能力の未熟さ、中学生においては13歳からワクチン接種回数が増えることの影響もあるかもしれません。



今回は症例数が少なかったために十分な検討ができなかったようですので、正確な評価をするためには今後もさらに調査が必要でしょう。

B型では発症予防、重症化予防効果のどちらも低い結果になっていますが、この理由は以下のように考えられています。

○インフルエンザワクチンによるB型に対する免疫獲得能力がもともと低いこと。

○2系統あるB型が両方とも流行したため、従来の3価ワクチン（A型2系統、B型1系統）でカバーしきれなかった。

○B型の流行はワクチンの効果が低下する流行期の後半にあたるため。

今回の調査からは、1～12歳ではA型に対しては一定の効果が認められました。B型に対する効果が今後の課題ですが、今季からはB型も2系統となった4価ワクチンが導入され、B型に対する効果が上がることが期待されています。

診察時間が近づいたことをお知らせする

メールサービス

約30分前

ご利用ください。
ご希望の方はメールアドレスを受付へ!!



急患随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 8:30～12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00～6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00～4:00	休診

真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321 秋田市土崎港中央6-8-3